

令和5年度普及活動成果集



共に歩み、切り拓く京築農業の未来

 福岡県京築普及指導センター

令和6年3月

はじめに

京築地域の農業者並びに関係機関の皆様には、日頃より普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ3年ぶりに日常を取り戻しました。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルのガザ地区侵攻といった世界情勢の悪化による、原油や肥料を始めとする資材高騰は昨年から続いており、農業者の皆様の経営は一段と厳しい一年でした。

このような中、普及センターでは、『共に歩み、切り拓く京築農業の未来』をスローガンに2つのプロジェクトと8つの係別計画を掲げ京築農業の次世代農業を牽引する人づくりや、園芸産地の維持拡大などに取り組みました。

人づくりでは、新規就農者とベテラン農家、新規就農者同士の交流を通じた定着支援や、集落営農組織の経営・運営強化を目的に人材確保に関する将来ビジョン作成を支援しました。

また、園芸産地の維持拡大では、生産拡大と共に環境測定装置やアイカメラを活用したイチゴ栽培管理技術の確立や、果樹の担い手機能を持った会社組織の経営確立を支援しました。

本成果集では、これらの普及活動成果や管内農業・農村の動き、現地実証・展示ほの結果を掲載しております。ぜひご一読の上、産地振興の参考としていただければ幸いです。

普及指導センターは、今後とも京築地域の農業発展のため、地域に出向き皆様と一緒に考え行動してまいります。ご理解ご協力をお願いします。

令和6年3月

行橋農林事務所 京築普及指導センター

センター長 高橋 克典

表紙写真の説明

上：エンジンの収穫（収穫作業の省力化に向けて、機械での収穫を試験しました。）

下右：地域計画の検討（地図を囲み、地域の将来について話し合いました。）

下左：日暮れまで続く稲わら収集（生産コストを抑えるため、畜産農家は自給飼料の生産に取り組んでいます。）

目次

はじめに
目次

1 普及活動の主な成果

新規就農者の確保支援	1
元気な農業の町・築上町	2
水田農業維持・発展に向けた担い手支援	3
ICTを活用したイチゴ担い手の技術力向上	4
夏秋ナスの担い手と生産力強化	5
果樹の担い手確保支援機能を持った組織の育成	6
施設でのホオズキ栽培技術の確立に向けて	7
畜産経営の安定化	8

2 管内の動き（トピックス）

.....	9
-------	---

3 普及指導員調査研究結果の概要

.....	14
-------	----

4 現地実証・展示ほ結果の概要

.....	15
-------	----

5 各種表彰の紹介（国、県）

.....	16
-------	----

6 参考資料

(1) 令和5年の気象および農業生産の概要	17
(2) 現地活動情報一覧	21
(3) 普及指導センターの活動体制	23

1 普及活動の主な成果

新規就農者の確保支援 —京築地域に若い活力の導入を—

■課題化の背景

農業者の高齢化による担い手の減少が深刻な問題となる中、産地や農村の維持・発展のため、新規就農者の確保と定着に取り組みました。

■活動内容

1 新規就農者の確保

「就農・就業相談会in京築」を管内の関係機関で組織する京築地域農業・農村活性化協議会担い手部会の主催で開催しました。開催にあたっては、市町およびJAの広報誌やホームページ、駅構内や商業施設でのポスター掲示によって広く周知するとともに、高等技術専門校(農業技術支援センター)、農業高校、農業大学校等にも周知を行い相談者の募集を行いました。

2 新規就農者の定着支援

就農後5年以内の新規就農者を対象に、ベテラン農業者との交流や営農意欲向上を目的とした「新規就農者のつどい」と「青年・女性農業者等意見及び実績発表大会」を開催し、就農者の定着を促進しました。

また、新規就農者を対象に、園芸品目の栽培とパソコン簿記について営農基礎講座を開催しました。



新規就農相談会



新規就農者のつどい



青年・女性農業者意見及び実績発表大会

■主な成果

1 新規就農者の確保

今年度の就農相談会には15名の申し込みがあり、希望する就農内容等について関係機関と共に相談を受けました。また、今回の相談会や個別の就農相談対応を行った結果、今年度、新たに15名が就農しました。

2 新規就農者の定着支援

ベテラン農業者との交流を通じて、先輩農業者の取組について学んだり、直接助言を受けたりしたことで営農意欲が向上しました。また、新規就農者同士の交流で農業者間のつながりができました。営農基礎講座では、栽培の基本知識や経営管理能力の習得につなげることができました。

■今後の取組み

就農相談会等の取組を継続し、新規就農者の確保を図るとともに、経営力向上に向けた支援を行っていきます。

(地域振興課、園芸畜産課)

元気な農業の町・築上町

—持続する地域農業へ—

■課題化の背景

築上町ではレタス、ブロッコリー等が基幹作物として栽培されていますが、価格低迷により農業所得が減少しています。そこで、園芸農家の経営改善のために新規補完品目の導入や端境期出荷に取り組みました。また、水田農業については、集落営農組織の役員やオペレーターの高齢化が進んでおり、担い手確保が喫緊の課題となっています。

■活動内容

1 園芸産地強化

新規補完品目候補として、高い収益性が期待できるホオズキとニンジンを選定しました。ホオズキは施設栽培の実証ほを設置しました。ニンジンは畝立て一工程播種の試験ほ設置と収穫調製作業委託による労力負担軽減について検討しました。また、端境期出荷が可能な品目として白ネギとケイトウを選定し、作付け希望者説明会や若手生産者の勉強グループである「次世代ファーマーズプロジェクト」を開催し、作付け推進を図りました。

2 水田農業の担い手育成

高齢化により組織運営が危ぶまれている組織に対しては重点的に支援を行うとともに、町内の集落営農組織が抱える課題を洗い出すため、関係機関と連携してほぼ全ての組織に対して聞き取り調査を行いました。

■主な成果

1 園芸産地強化

ホオズキは、平坦地での施設栽培が可能かつ、ほ場占有期間が3か月短縮できることが実証されました。ニンジンは、畝立て一工程播種の有用性が示されたことから、機械化による労力の削減効果が確認できました。また、端境期出荷については、8戸の生産者が新たに栽培を開始しました。

2 水田農業の担い手確保

支援を行った2つの組織では担い手を確保することができました。

集落営農組織への聞き取り調査結果から、共通する課題と組織各々の課題を明らかにでき、今後の支援方針を関係機関で共有できました。



次世代ファーマーズプロジェクト試験ほ場



集落営農組織研修会

■今後の取り組み

新規補完品目を導入した経営モデルの実証による園芸農業の強化と、地域人材を活用した担い手確保による水田農業の継続に取り組んでいきます。

(園芸畜産課、地域振興課)

1 普及活動の主な成果

水田農業維持・発展に向けた担い手支援

—集落営農組織の人材確保・育成に主眼を置いて—

■課題化の背景

京築地域では94の集落営農組織が設立され、現在ではその半数以上が法人経営に移行し、水田農業の主要な担い手として活動しています。

しかし、近年、高齢化により組織を支える役員・オペレーターが不足し、組織の運営が年々厳しくなっています。これに対応するため人材確保・育成の取組を強化する組織や個別大規模経営体と連携する組織などがでてきており、これらの支援が急務となっています。

■活動内容

1 人材確保に関する将来ビジョン策定支援

集落営農組織の経営・運営の強化を目的に、人材確保・育成に視点を置いた将来ビジョン策定の必要性を説明し、策定の意向のある組織の役員と打ち合わせを行い将来ビジョンの策定支援を行いました。また、全組織対象に人材確保に関するアンケート行いました。



将来ビジョン打ち合わせ風景

2 担い手間連携による経営維持・発展支援

集落営農組織間や個別大規模経営体との連携による人材確保を行う組織に対して、現状の聞き取り、アンケート結果の検討や雇用導入後の経営試算などの支援を行いました。また、連携相手となる担い手に対しては、受けることのできる作業内容や時期、作業受ける際の注意点や今後の拡大方針など状況を聞き取り、そのための支援方策を検討しました。

■主な成果

1 人材確保に関する将来ビジョン策定支援

今年度は新規・更新を含め6組織が将来ビジョンを策定しました。これにより、令和2年度からの累計で12組織が策定済みとなりました。また、アンケートでは8割の組織が将来的に人材不足になると回答し、人材不足が喫緊の課題であることが明らかとなりました。

2 担い手間連携による経営維持・発展支援

2組織間で防除作業の受委託の体制が構築されました。また、このような事例を関係機関で共有し、他で相談があったときにも対応できるよう体制を整えました。

■今後の取組み

今後も、担い手不足が続くと予想されるため、集落営農組織の人材確保・育成に向けた「将来ビジョン」策定と、人材確保の支援を行い、担い手を確保し水田農業の維持・発展に取り組めます。

(地域振興課 水田農業係)

ICTを活用したイチゴ担い手の技術力向上

—産地の維持と担い手の経営安定に向けて—

■課題化の背景

J A福岡京築いちご部会では高齢化が進み、作付面積や出荷量の減少等の課題がある一方、新規生産者は毎年確保されると共に、1戸当りの生産量は増加しています。高収量確保の生産者は、近年、スマート農業機器の導入を進めていることから、これらを活用し、担い手の生産者の技術力向上を目的とした活動に取り組みました。

■活動内容

1 ICTの導入推進

栽培技術の平準化を図ることを目的に、講習会や研修会等でのICT機器*の利点紹介や現地での実証試験を行い、環境測定装置の導入を推進しました。

2 ICTを活用した生産者の技術力向上

ハウス内環境データや生育データの生産者間比較を共有し、改善点の洗い出しを行うことにより、高収量者の生育に近づく栽培管理方法をまとめた個別カルテを作成して支援しました。

また、ハウス内環境に合わせた管理ができるよう、環境測定装置と併せて光合成促進装置の導入推進も行いました。

■主な成果

1 ICTの導入推進

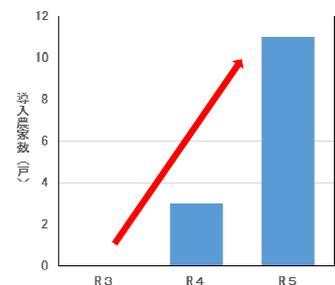
担い手農家を中心に環境測定装置の導入は、3戸（令和4年）から11戸（令和5年）と増加しました。

2 ICTを活用した生産者の技術力向上

個別カルテに基づき、農家ごとに栽培管理を改善した結果、スマート農業機器を設置した担い手農家7名のうち5名で単収が増加しました。また、単収5,000kg/10aを目指してICT研究会も設立されました。



環境測定機器



スマート農業機器導入農家数
(園芸畜産課 野菜係)

■今後の取組み

今後も産地の維持や担い手の経営安定に向け、ICTの導入推進や技術力向上を支援します。

※ ほ場の環境情報や生育状況をモニタリングする機器

夏秋ナスの担い手と生産力強化

課題化の背景

J A福岡京築夏秋ナス部会には新規栽培者が毎年加入している一方、高齢化による作付面積や出荷量の減少が危ぶまれています。また、栽培品種も令和3年度に「大豊」から「筑陽」へ変更されており、部会の生産力維持・向上のためにも、次代を担う人材の育成と品種変更に合わせた栽培方法の普及が求められていました。そこで、担い手の早期技術力向上と「筑陽」の栽培技術の普及を目的とした活動に取り組みました。

活動内容

1 担い手の早期技術力向上

今後の担い手として選定した7名の生産者を対象に個別面談を実施し、栽培上の課題の洗い出しと対策の検討を行い、目標単収や栽培管理のポイントを生産者と共有しました。そのうえで、個別巡回指導および高収量者ほ場における現地栽培講習会を行い、技術力の向上を図りました。

2 「筑陽」に合わせた栽培方法の普及

高収量確保に必要な情報をまとめた京築版「筑陽」栽培手引きと、要点となる管理を抽出したチェックリストを作成し、部会員へ共有しました。

主な成果

1 担い手の早期技術力向上

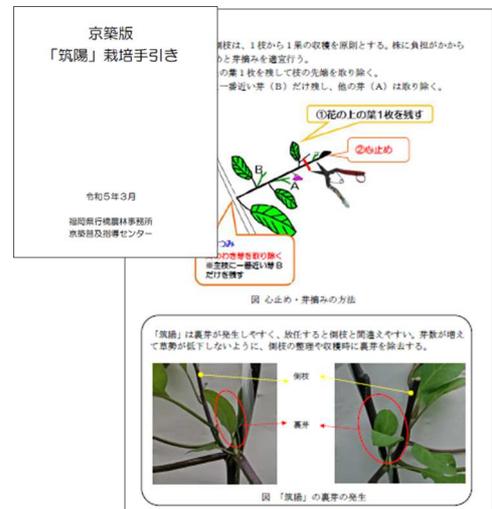
個別の課題と対策が明確になったことで、より担い手に応じた指導が可能となり、栽培技術が短期間で向上し、6名の担い手が目標単収を達成しました。

2 「筑陽」に合わせた栽培方法の普及

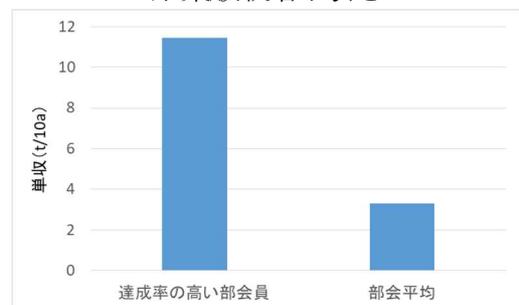
病害虫や天候不順が発生した際に栽培手引きを活用することで、部会員自身の判断で臨機応変な対応ができるようになり、適期管理が可能になりました。また、チェックリスト達成項目が多い部会員は単収が高く、項目が単収向上に寄与していることが示されました。

今後の取組み

今後も担い手への個別面談および重点指導を実施し、部会をリードする人材を育成します。併せて、チェックリスト活用を促し、「筑陽」の栽培技術を向上することで、産地の維持・拡大を支援します。



京築版栽培手引き



チェックリスト達成による単収向上効果

(園芸畜産課 野菜係)

果樹の担い手確保機能を持った組織の育成

■課題化の背景

J A福岡京築新田原果樹部会での果樹サポート部設立以降、組織運営についての助言や支援を行ってきましたが、作業支援に加えて新規就農者の育成や園地流動化への対応が求められるようになりました。そのため、令和5年3月にサポート部が法人化され「株式会社ふるさぼ新田原」が設立されたため、本法人を核とした担い手確保に取り組みました。

■活動内容

1 利用権設定園地の増加

J A福岡京築新田原果樹部会員へ営農意向アンケートを実施し、離農予定や園地の貸付希望についての把握を行いました。アンケート結果は地番と連携させてデータ化し、現況を見える化した園地マップを作成しました。

2 雇用労力の活用

法人の雇用体制を整備するため、税理士や社会保険労務士を招いた相談会を開催しました。また、農福連携に向け、近隣の社会福祉施設と法人との意見交換会を開催しました。

3 担い手の確保

京築地域農業・農村活性化協議会主催の就農・就業相談会へのブース出展を支援するとともに、法人独自の就農相談会を開催しました。また、就農希望者に栽培技術指導や営農計画策定の支援をしました。



就農相談会の開催



園地マップ

■主な成果

離農者のイチジク園地を法人や新規就農者が借り受けることで廃園が防止されました。

法人が借り受けた園地では、雇用した就農希望者が管理作業に従事しつつ技術習得を行うと共に、法人が関係機関や地権者との橋渡し役を務めたことで、来春の就農が決定しました。

■今後の取組み

就農希望者の技術習得の場となるトレーニングファームの整備と、研修受け入れの体制づくりを支援し、担い手確保の取組を強化していきます。

(園芸畜産課 果樹係、地域振興課 地域係)

施設でのホオズキ栽培技術の確立に向けて

■課題化の背景

京築地域は露地主体の花き産地であり、特に仏花需要のあるホオズキは古くから栽培され、市場から高い評価を受けています。

ホオズキの特徴である実の赤色は、平坦地よりも気温の低い中山間地で発色が良いとされていますが、ほ場が確保しにくいことや高齢化等により出荷量は年々減少しています。そこで、これまで栽培適地とされていなかった平坦地の施設を活用する栽培技術の確立を検討しました。

■活動内容

まず、平坦地での発色を改善する栽培技術や、施設栽培で発生しやすい病虫害防除技術を確立するため、実証試験を通じ検討しました。

次に、種子から育成した苗を春に定植する「実生由来苗栽培法」について、ほ場占有期間、労働性および経済性を調査し、新たな経営モデルの作成に取り組みました。

また、関係機関花き担当者や施設ホオズキを検討している生産者と共に、先進地視察を行いました。

■主な成果

実証試験では、平坦地での施設栽培における、発色改善技術や病虫害防除技術が確立でき、この結果を栽培マニュアルとしてまとめました。

「実生由来苗栽培法」は従来の栽培方法と比べほ場占有期間が約3か月短縮できることから、施設野菜との組み合わせが可能となり、施設野菜経営における真夏の収入確保という経営モデルを作成しました。

先進地視察では参考となる技術を学ぶことができ、同行した生産者の施設ホオズキ栽培意欲が高まり、新たに2名が次年度の施設ホオズキ栽培に取り組むこととなりました。



良好に着色した施設ホオズキの実

■今後の取り組み

新たに施設ホオズキを栽培する生産者を支援していくとともに、平坦地の園芸農家を対象に冬春野菜との組み合わせによる生産拡大に取り組めます。

(園芸畜産課 花き畜産係)

畜産経営の安定化

■課題化の背景

現在の畜産情勢は、国際的な飼料原料価格の上昇や肉用子牛価格の暴落等、大変激しい変化にさらされています。その中で、畜産経営を安定させるため、生産者毎の課題解決による事故廃用減少と繁殖成績向上や、低コスト飼料の確保と有効利用対策への支援が求められています。

■活動内容

これまでの活動の中で整理された生産者毎の課題の解決に取り組みました。牛では環境改善や周産期を中心とする飼養管理の改善と、自給飼料を適切に利用した飼料給与により事故廃用率の低下と繁殖成績の向上を図りました。

また、新たにWCS用稲や子実用とうもろこしの栽培に取り組む生産者への栽培技術支援や生産者間の連携支援により、自給飼料生産利用体制の構築を図りました。

■主な成果

飼養環境・飼料給与・衛生プログラム改善への支援により、子牛の事故廃用率が大幅に改善しました。

高糖分高消化性WCS用稲では新たに集約された8ha規模の栽培や、自給粗飼料や飼料用米・子実用とうもろこしといった自給濃厚飼料の牛への有効利用等、新たに5か所の自給飼料の生産利用体制を構築しました。



整備された子牛管理施設



収穫されたWCS用稲

■今後の取組み

引き続き関係機関と共に、各生産者の課題や方向性の把握と共有を進め、有効な改善提案を行うことで、畜産経営の安定化を図っていきます。

(園芸畜産課 花き畜産係、地域振興課 水田農業係)

2 管内の動き（トピックス）

令和5年度全国麦作共励会で築上町の農事組合法人今津の里が 全国米麦改良協会会長賞を受賞

築上町の農事組合法人今津の里が、令和5年度全国麦作共励会 集団の部で全国米麦改良協会会長賞を受賞しました。

当法人は、築上町が製造するし尿処理液肥や下水処理を活用した汚泥肥料等を使用して土づくりを行い、排水対策と踏圧・土入れ等の基本的な管理作業を徹底することで、毎年高収量・高品質を達成しています。経営面では、倉庫の500m以内にほ場を集積することで労働時間の短縮を、溶接免許等の多様なスキルを持つ組合員が機械の保守点検を行うことでコスト低減を図っています。

また、防風林の除草といった環境保全の取組や食育活動を積極的に行っており、地域農業の重要な担い手として活躍していることが評価されました。



受賞した農事組合法人 今津の里

令和4年度福岡県大豆作経営改善共進会でみやこ町の農事組合法人 ながわファームが優秀賞を受賞

みやこ町の農事組合法人ながわファームが、福岡県大豆作経営改善共進会 集団の部で優秀賞を受賞しました。



受賞を喜ぶ農事組合法人ながわファーム

当法人が活動する地区は排水不良田が多いため、周囲溝の施工やうね溝との連結等の排水対策の徹底と部分浅耕—工程播種の導入により高収量・高品質を達成しました。経営面では、団地化によるブロックローテーションの実施により労働時間の低減につなげているほか、ほ場ごとに適正量の資材を投入するとともに、近隣の集落営農法人と機械をシェアしてコスト低減を図っていることが評価されました。

当センターの活動事例が全国農業改良普及支援協会長賞を受賞

令和5年11月15日に東京都中央区のAP東京八重洲会議室で開催された第11回農業普及活動高度化全国研究大会において、当センターの久原技師が普及活動事例「福岡県初！果樹産地を守る地域ぐるみ型農業法人の設立支援～JA果樹部会を核とした産地維持のしくみづくり～」を発表し、全国農業改良普及支援協会長賞を受賞しました。

この研究大会は、各都道府県が、代表する普及活動の優良事例を発表するもので、当センターは福岡県代表として参加しました。

今回受賞した活動事例は、行橋市の新田原地域の果樹生産者を対象に、作業受託組織の設立やその活動強化について行った、約10年間の支援についてのものです。新規就農者の技術習得と高齢農家の支援を組み合わせた活動が評価されました。



受賞した久原技師（右）

福岡県ワンヘルス認証の取得進む

人とすべての動物の健康と環境の健全性は、生態系の中で相互に密接につながり、強く影響し合う一つのもの＝「ワンヘルス」(One Health)の理念のもと、この実践が次世代の食と農に繋がることから、福岡県では農林水産業におけるワンヘルスの取組を進めています。

その一環として、ワンヘルスの理念に沿って生産される農産物を認証する「福岡県ワンヘルス認証制度」が全国で初めて創設されました。

当管内では、今年度、野菜で、イチゴ他9品目、果樹で、イチジク他2品目が認証を取得しました。今後も他品目において、認証取得が進んでいます。



福岡県ワンヘルス認証マーク（左）

2 管内の動き（トピックス）

加工品開発で経営を発展

カキを生産している女性農業者が加工品開発に取り組み、経営発展に繋がりました。

これまで栽培技術の習得と生産量の向上を目標としてきましたが、適期収穫・適期販売ができない果実が増えたことと、「収穫シーズン以外でも柿を食べたい」という消費者の声があったことから加工品の開発に乗り出しました。開発と販売には「農林漁業女性ベンチャー育成事業」を活用し、機器整備により加工品製造作業の効率化や製品の品質安定化が図られるとともに、応援企業との交流により販路の確保ができました。

今後も同様の女性農業者を中心とした起業の取組が期待されます。



販売を予定している冷凍柿「柿氷」



企業へのプレゼンの様子

飼料コスト低減の取組が拡大

国際的な飼料原料価格の上昇の中、京築地域では飼料コスト低減の取組が進んでいます。

新たな取組として、8ha規模に集約された2か所で高糖分高消化性WC S用イネの栽培、子実用とうもろこしの試作栽培、鶏だけでなく牛においても飼料用米や子実用とうもろこしの利用等が挙げられます。

また、水田裏作でのイタリアンライグラス栽培や稲わら収集も拡大しており、各生産者の弛まぬ努力が続いています。



子実用とうもろこしの収穫



収穫された粗飼料

■ 築上町八津田地区の地域計画策定進む

地域計画の地元検討会が築上町八津田地区で開催されました。

地域計画とは、農業経営基盤強化促進法により法定化され、地域の話し合いにより10年後の農地利用の姿を明確にするための計画です。

今回、八津田地区が京築管内の先行実施地域として位置づけられており、地元の農業者（認定農業者、集落営農組織等）及び関係機関（築上町役場、JA福岡京築、普及指導センター）が、将来の農地利用について協議しました。これにより、地域の担い手を明確にし、将来の農地集積計画及び目標地図も策定されました。

令和6年度には、管内全域で地域計画の策定が進んでいきます。



地域計画の検討風景

■ ケイトウの新たなピンク系主力品種を選定

京築管内で現在栽培されている赤系品種「麗炎」は、収穫時期が市場単価の高い時期と一致し、市場が求める形質を満たす主力品種です。一方、ピンク系品種にも一定の市場需要があり、管内では「有明」が栽培されています。しかし「有明」は大花化や収穫遅れのリスクがあるため、ピンク系数品種について栽培試験を行いました。

結果は「プリンスローズ」の品質（花のサイズ、花形）が「麗炎」と同等で、「有明」のように大花化せず、収穫時期の遅れも発生しませんでした。また生産者からは、栽培特性が「麗炎」と同様で、管理がしやすいとの意見がありました。

以上の結果をJA福岡京築花卉部会内で共有し、令和6年度からはピンク系主力品種として「プリンスローズ」を管内で生産することとなり、ケイトウ産地の維持・発展に向けてまた一歩前進しました。



美しく咲き誇るプリンスローズ

2 管内の動き（トピックス）

■ 新たな露地園芸品目の導入に向けて

管内の野菜産地は露地品目が多くを占め、レタスなどの冬春野菜の栽培が盛んに行われています。しかし、生産者の高齢化と担い手不足が進んでおり、省力・軽作業化の確立が喫緊の課題となっています。

そこで、機械による省力化が可能で、一定の収益が見込める「ニンジン」を選定し、畝立・播種作業および収穫作業の機械化体系を試験しました。

その結果、労力を大幅に削減できるとともに、品質および収量性も高く、管内で導入可能な品目と機械化体系であることが実証されました。

今後は、関係機関と連携しながら、本格導入を目指して支援していきます。



機械化体系によるニンジンの収穫作業

■ 「京築地域ブドウ研究会」を設立し、勉強会を開催

これまで京築地域にはブドウ部会がありませんでしたが、近年のシャインマスカットの人気により、ブドウの新規導入についての相談や生産者から栽培に関する問い合わせが増えてきました。そこで、関係機関の支援体制の強化と生産者の栽培技術向上を図るため、「京築地域ぶどう研究会」を設立しました。

今年度は、ブドウ栽培に関する基本情報の共有を行うため、市町村、JA、生産者を対象とした勉強会を開催しました。市町村、JAに対しては、1月29日に勉強会を開催し、ブドウ栽培を始めるために必要な設備やブドウ栽培の特徴、品種特性等を説明しました。一方、生産者に対しては、2月27日に基本的な栽培のポイントについて説明をしました。参加者のみなさんからも質問・意見が多くあがり、有意義な勉強会となりました。

ブドウが京築地域の特産果樹の一つとなることが期待されます。



会場と園地をオンラインで繋ぎながら説明



熟練農家から直接指導

課題名	結果の概要	部門	担当者
新規就農者の定着に向けた問題点の解明	就農後3年目までの技術習得方法の違いや身近に相談できる生産者の有無が目標達成に影響することが分かった。	地域	亀田
集落営農組織における新たな担い手の確保に向けた検討	築上町の多くの集落営農組織が人材確保の問題を抱えており、地域コミュニティでの勧誘活動も行われているが十分ではないことが分かった。	地域	安藤
人材確保に取り組む集落営農組織の分析	集落営農組織の8割で将来的に人材が不足することが明らかとなった。具体的には、オペレーターや草刈りの出役人など現場の労働力が不足するため、その確保に向けた支援が必要であることがわかった。	水田	安武 谷口
イネカメムシの発生実態の把握と防除方法の確立	管内13地点で定点調査を行いイネカメムシの発生消長の傾向を把握した。また、適切な防除時期の検討もを行い、1回防除よりも出穂期+出穂後の2回防除でイネカメムシの発生数を減らせることが確認できた。	水田	太田(吉) 野見山
直売所の端境期出荷野菜の栽培実証	白ネギの初夏出しに適する品種を調査した結果、用いた3品種の苗質および階級が同等であったため、10a当たりの収量と売上は収穫本数の一番多かった初夏扇が良かった。	野菜	佐伯
水田土壌における白ネギの適正な条間の検討	作付前に土壌硬度から条間を決定できる基準を現地の実態から作成した。併せて条間の違いによる収量性・収益性を検討した。条間100cmの収量は条間140cmより約20%多く、売上が約15万円高くなることが明らかになった。	野菜	宇都
低樹高ジョイント栽培における「秋王」の生理落果対策技術の検討	低樹高ジョイント栽培における「秋王」の支柱および枝角度を開帳したが、生理落果および樹勢の抑制にはつながらなかった。	果樹	山本
イチジク樹勢強化に向けたオーガー法の部分深耕による堆肥施用効果の検討	樹勢強化に対する堆肥施用方法別の効果は判然としなかったが、オーガー法を用いることで地中への発根効果があることが確認できた。	果樹	久原
地理情報システムを活用した樹園地管理情報の整備	新田原果樹部会員に対して営農継続や園地の貸借についてのアンケートを実施し、結果を地理情報システムを用いて地図化した。	果樹	大蔭
施設ホオズキにおける着色技術の実証	実生由来苗を用いた施設ホオズキにおいて、エスレルを収穫2週間前に800倍稀釈・80L/aで散布し、その後、着色遅れが出た場合は追加で500倍稀釈・50L/aで散布することで、着色が良好となった。	花き	小田
ケイトウの出荷先別総経費調査	収穫調製に係る作業時間、出荷先別経費を調査した。作業時間は直売所が多くかかった。また、1日の収穫可能本数は調製可能本数より少なく、収穫効率を上げる必要があることが分かった。経費は需要期の共販出荷(8月1日～10日)と直売出荷(11日～13日)が同等で、両者を組み合わせた出荷形態により経費を一定に保ちつつ高単価を維持した販売が可能であることが分かった。	花き	高田
乳牛敷料及びふん尿処理時水分調整材としての古紙リサイクル品の効果検証	吸水性が高い古紙リサイクル品を、吸水性が低いモミガラに混合し、乳牛つなぎ式牛床の敷料として使用した場合、牛体の衛生スコアを改善する可能性があり、敷料コストも抑えられることが分かった。さらに、古紙リサイクル品は一般的な使用条件ではふん尿発酵処理に悪影響を与えず、オガクズの代替として有望な資材と考えられた。	畜産	手島

4 現地実証・展示ほ結果の概要

品目	課題名	結果の概要	設置場所
水稲	水稲奨励品種決定現地調査	新系統「ちくし102号」と「ちくし104号」の中山間地における現地栽培試験を行った。両系統とも対照の「夢つくし」と比べ出穂期及び成熟期が早かった。収量性では「夢つくし」と比べ「ちくし102号」は同等、「ちくし104号」は低かった。	豊前市
大豆	大豆作における難防除雑草の体系防除の検討	大豆作における体系防除（中期除草剤）の比較を行った。「ポルトフロアブル」と「大豆バサグラン液剤」の混用散布した試験区が最も雑草の生育を抑制した。	行橋市
麦	被膜崩壊性の高い被覆肥料「Jコート」を用いた麦の安定栽培技術確立	環境負荷とコストの低減を目的に、被膜が崩壊しやすい被覆肥料「Jコート」を含む追肥肥料の検討を行った。麦追肥一発2号（Jコート仕様）は慣行の肥料と同程度の収量が得られた。	築上町
ブロッコリー	ブロッコリーにおける新規作型の検討	3月収穫作型の確立を目的として、栽培管理と品種を検討した。適切な肥培管理と花蕾品質および収量が安定する品種が明らかになり、該当作型候補を確立することができた。	みやこ町 築上町
スイートコーン	ドローン防除によるスイートコーン防除効果と費用対効果について	ドローンによる防除作業の省力化と防除効果および費用対効果について検討した。大雨により倒伏したため、防除効果については判然としなかったが、作業時間については大幅に短縮することが可能となった。	築上町
アスパラガス	アスパラガスの高収量者の実態調査	管内の高収量者の栽培方法を明らかにすることを目的として、高収量者と通常収量者の栽培管理を比較する試験を実施した。高収量者の方が、草丈・立基本数・茎葉面積の月別の平均値が高く推移していることが明らかになった。	豊前市 みやこ町 築上町
キウイフルーツ	キウイ樹勢強化に向けたオーガー法の部分深耕による堆肥施用効果の検討	深耕部分に向かって根が伸びていたことから、オーガー法を活用し、土壤水分の変動が少ない地中内に根を増やすことができれば樹勢強化につながる可能性がある。	みやこ町
キウイフルーツ	粘土質緻密土壌における土壌改良資材を用いた土壌膨軟効果の検討	昨年度の調査と同様に施肥区の方が対照区より貫入抵抗が低くなっていることから、シンボルエースを施用することで土壌硬度の改善につながった。	行橋市
中晩柑	中晩柑「はるみ」の隔年結果解消に向けたジベレリン液剤散布効果の検証	中晩柑品種「はるみ」について、前年度に着果量が不足し、今年度は着花過多が見込まれたため、収穫後（12月）にジベレリン処理を行ったが着花抑制効果は判然としなかった。	豊前市
ケイトウ	ピンク系ケイトウの新品種導入の検討	「有明」、「久留米ローズ」、「プリンスローズ」の2粒区、4粒区を設け、各区の生育と品質を優良品種「麗炎」の出荷規格、収穫時期と比較した。結果は「プリンスローズ」の2粒区が「麗炎」の出荷規格、収穫時期とほぼ合致した。	吉富町
畜産	古紙リサイクル品の肉用牛牛床敷料としての効果実証	肉用子牛敷料としての敷料能力および経済性について、古紙リサイクル品：モミガラを容積比1：1で混合したものは、オガクズ同等と期待できると考えられた。また、古紙リサイクル品：モミガラを容積比1：2で混合すると、モミガラのみより大幅な敷料効果が期待できると考えられた。	豊前市

表彰事業名・受賞名	受賞者氏名・組織名	市町村名
令和5年度全国麦作共励会 集団の部 全国米麦改良協会会長賞	農事組合法人 今津の里	築上町
令和5年度福岡県麦作共励会 集団の部 最優秀賞		
令和4年度福岡県大豆作経営改善共進会 集団の部 優秀賞	農事組合法人 ながわファーム	みやこ町

※令和5年4月から令和6年2月の期間の表彰事業において表彰を受けた個人および組織

(1) 令和5年の気象および農業生産の概要

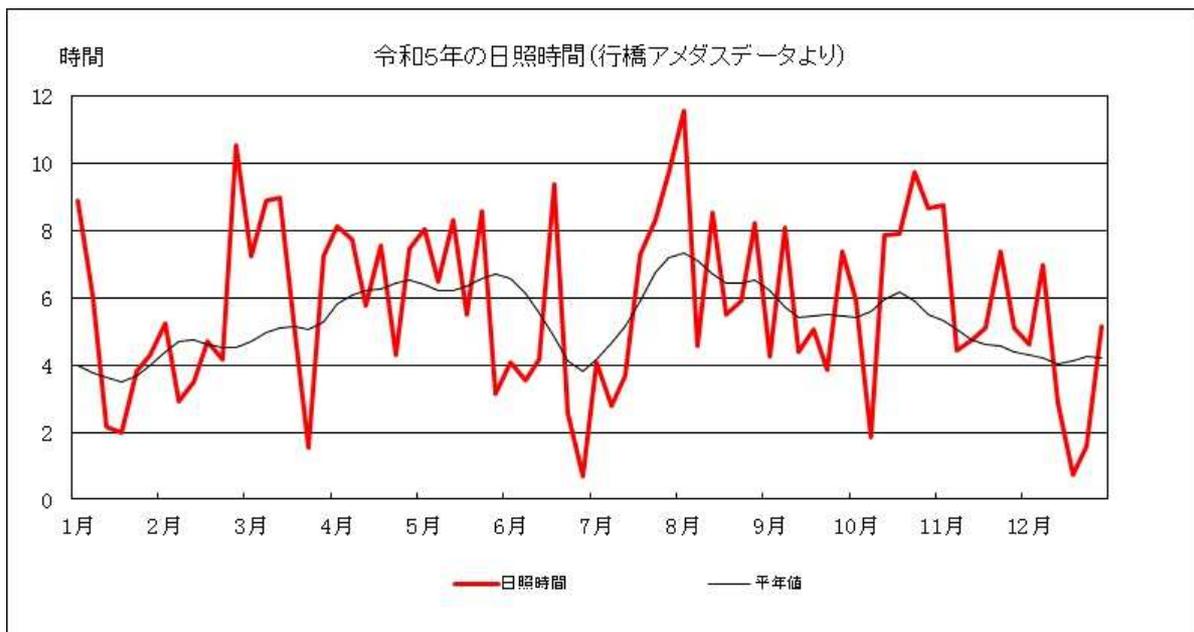
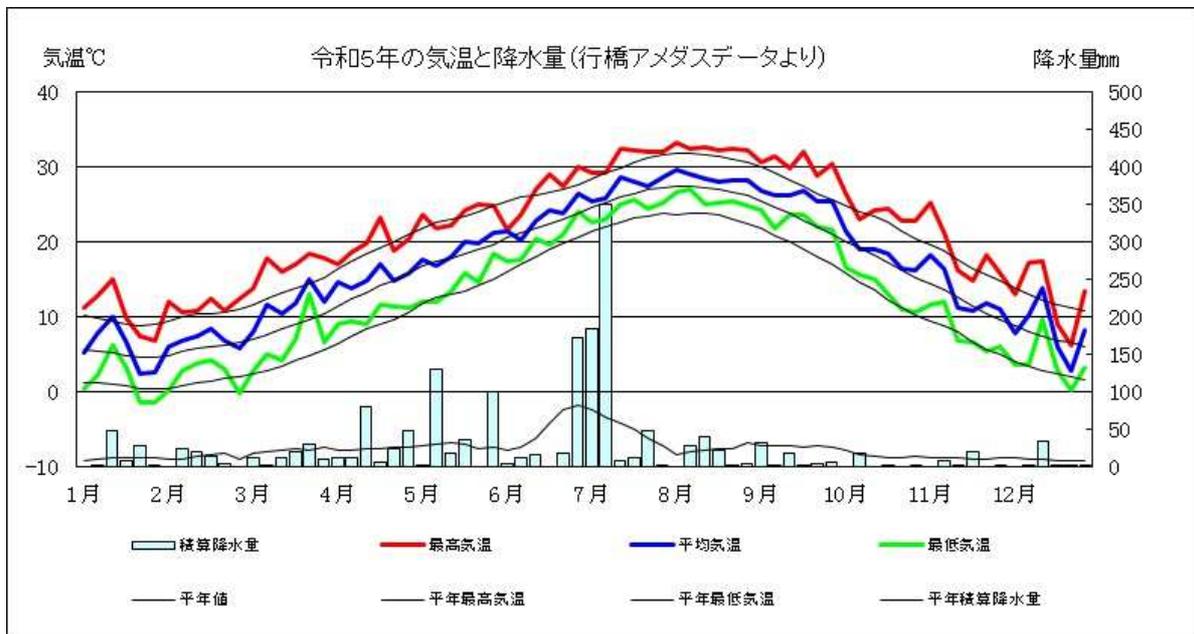
■ 気象概況

1～2月の降水量は平年よりやや多く、日照時間は平年よりやや多かった。

3月の気温は平年よりも高く、日照時間はやや多かった。4月の気温は平年よりやや高く、降水量は平年よりやや多かった。5月の気温は平年並で、降水量は平年より多かった。

梅雨入りは5月29日（平年より6日早い）、梅雨明けは7月25日（平年より6日遅い）となった。6月の日照時間は平年並であった。6月末～7月上旬の3回に渡る豪雨により降水量は平年よりも多くなり、一部地域で冠水被害が発生した。

8月の気温は平年より高く、降水量は平年並であった。9～12月の気温は平年よりも高く、日照時間が多い反面、降水量は少なかった。



■主な品目の生産概要

普通作

○ 水稲

早期水稲の移植は4月15日頃から始まり、5月3日頃がピークであった。移植後は高温多雨のため、草丈はやや長く、茎数は平年より少なかった。6月～7月は気温が平年よりやや高く、出穂期は平年より3日～4日早かった。出穂期以降は、高温少雨で経過し、成熟期は平年より早くなった。平年と比べ稈長は高く、穂数は少なく、収量は平年並み～やや低くなった。品質は、高温による白未熟粒の発生やイネカメムシによる不稔や斑点米等の被害が一部で見られた。

普通期水稲の移植は、6月3日頃がピークとなった。移植後の活着は良好で、6月～7月は高温多雨で草丈は高く、茎数は平年並みだった。8月は高温多照のため、出穂期は平年より早くなった。出穂期以降は高温少雨で、成熟期は平年より早く、稈長はやや高く、穂数は平年並みとなり収量も平年並みであった。品質は、夢つくしで高温による白未熟粒の発生等で平年より低下し、元気つくしは、高温による白未熟粒の発生とイネカメムシの被害で、著しく等級が低下した。

○ 麦（令和5年産）

播種は令和4年11月初旬から始まり、12月上旬には全体の約80%のほ場で完了した。1月の降水量は、平年より19%多かったため麦踏み等の管理作業が十分に出来ず、生育は平年並みからやや遅く、草丈は平年並みで、茎数は平年並み～やや少なく推移した。2月以降は気温の上昇で麦の生育が前進し、茎立ち期、出穂期とも平年より1週間～10日程度早くなった。成熟期も平年より5日程度早くなったが、初期の生育不良で穂数は平年並み～やや少なかった。5月上旬の降水量は平年比247%となり、激しい雨による倒伏が発生した。収穫は5月中旬から始まったが、継続的な降雨により、刈り遅れによる穂発芽や退色が発生し、前年より収量・等級が低下した。

○ 大豆

6月28日頃から播種作業が始まったが、梅雨入りから断続的な降雨となり、適期の7月20日までに播種できたほ場は全体の12%と少なくなった。梅雨明け後の7月末で67%のほ場で播種が完了したが、8月播種が昨年に比べ多くなった。8月以降の高温少雨により、開花期は平年並み～やや早くなった。9月、10月は降雨が少なく、主茎長及び最下着莢高は平年並みとなり莢数はやや多かった。収穫は11月1日から始まり、カメムシ類が多発したため一部ほ場で青立ちが発生した。粒肥大期である9月～10月の乾燥や雑草の多発等があったが、収量は前年よりやや高く、大粒比率及び1等比率は前年並みであった。

野菜

○ イチゴ

令和4年度の12月下旬～1月の低温及び1番果房の着果負担により、12月末から草勢が低下したほ場が見られた。令和5年度については、4月上中旬に気温が高く、ランナーの発生は例年よりも早かった。6月30日から7月10日の多雨および高温により、炭疽病が7月上旬から発生が見られ、一部地域では発生が急激に拡大した。早期作型の定植は、花芽分化が早かったため順調に行われたが、普通促成は花芽分化が遅れたため、例年よりも遅い定植となった。定植後の気温が平年を上回る高温傾向で推移したことから、早期作型の生育は例年よりも早かった。2番果房は果房間葉数4～6枚（株冷）と順調な分化となった。

○ レタス

9月上～中旬の台風の影響により5～7型において、苗の生育が悪かった。定植は、8月中旬～10月の降水量が少なかったことから、ほ場準備も含め順調に行われた。定植後は9月以降の降水量が少なく緩慢となり、全体的に遅れ気味の傾向であった。また、定植後の気温が高かったことから、一部でタコ足球や

6 参考資料

抽苔が発生した。病害虫については、10月上旬からチョウ目類の発生が多くなり、10月中旬以後に被害が見られた。

○ スイートコーン

一部品種で、は種後の低温の影響により発芽不良がみられたが、苗質は平年並となった。定植は、降雨が少なく、早めのは場準備やレタス畝後を利用したことから、全作型で順調に行われた。4月～6月にかけて気温が高く、株は順調に生育したが、多雨の影響により一部地域で生理障害（Mg欠）の発生や先端不稔、果実の裂果によるカビの発生が見られた。出荷規格に関しては昨年度より小さく2L中心の出荷開始となった。

○ 夏秋ナス

定植は4月28日頃を中心に行われ、その後にもまとまった降雨があったため、活着は概ね順調であった。5月上旬の低温と豪雨で平年より生育が遅れ、第一果収穫は6月中旬頃と平年よりやや遅かった。6月下旬から7月上旬までの記録的な長雨により、多くのは場で根傷みと花落ちが発生した。7月中旬から9月下旬までは、例年より高温であったため、生育が促進されたが、10月上旬以降気温は平年並みとなり、出荷量は減少していった。病害虫については、5月と7月にうどんこ病、8月に褐紋病が発生した。晴天が続いた時期に、アザミウマ類、チャノホコリダニの発生が目立った。

果樹

○ イチジク

発芽日はおおむね前年並。収穫期の高温により、特に8月は着色不良果が多く発生したほか、乾燥の影響により小玉果も多く発生した。収穫期の少雨により疫病の発生は少なかったが、そうか病の発生がやや見られた。出荷量は昨年対比で約1割増となった。

○ モモ

開花は前年より1日程度早かった。7月の長雨により収穫直前に生理落果が見られた。また、樹勢低下や若木の枯死等により収穫量は前年より減少した。前年の台風によりせん孔細菌病の越冬密度が高くなったことでせん孔細菌病が多発した。

○ キウイフルーツ

着果は良好で、糖度は昨年同様高糖度であった。果実肥大については園地ごとのばらつきはあるものの、おおむね良好であった。日焼け果は少なかったが、カイガラムシが多発した園が多かった。出荷量は昨年度より増加した。

○ ナシ

着果量は前年同様多かった。5月～7月の降雨により初期肥大は良好であったものの、それ以降の乾燥により小玉傾向となったため出荷量は減少した。赤星病、黒星病の発生は少なかったが、一部品種でシンクイムシ類の食害が多発した。

○ ユズ

生育は樹ごとによりばらつきが非常に大きいですが、全体的に表年に当たり収穫量は前年より多くなった。一部園地でハダニの発生および訪花昆虫による傷果が発生した。

○ カキ

満開日は前年より1日程度早かったが、収量はおおむね前年並。「秋王」においては灰色かび病が多発したが、その他病害虫の発生は少なかった。どの品種も高糖度であったが、高温によるやわ果、着色不良が見られた。

花き

○ ホオズキ

初期生育は良好であったが、サルハムシの食害が多く見られた。開花時期となる5月は例年通りの気温、日照であったため、花飛びが少なかった。

6月上旬に梅雨入りしたが、中旬まで空梅雨であったため、かん水による草丈の確保が図られた。6月末から7月上旬にかけての豪雨により畝が冠水し、多くのほ場で湿害や軟腐病が発生した。収穫時期には斑点細菌病や軟腐病が多発し品質が低下した。

○ キク

7月出荷は3月から4月中旬にかけての高温により初期成育が良好で、草丈が確保できていたが、花芽分化は前進化し、収穫が例年よりも2週間ほど早まった。8月出荷は6月末から7月上旬の豪雨により、根傷みに伴う立枯病が発生した。加えて、黒斑病と褐斑病も多発した。

○ ケイトウ

定植直後の根の活着遅れ、6月上旬の低温寡照により、初期生育が遅延した。また、6月下旬から7月上旬にかけての日照不足により発蕾遅れが、7月後半の少雨により節間の伸長不足が見られ、8月上旬の出荷時期には、草丈が低い秀品サイズの花が多く見られた。

○ シンテツポウユリ

4月中旬の定植期に高温乾燥が続いたが適期かん水により、初期生育が確保された。同時に葉色に応じた肥培管理が行われ、輪数が確保された。6月下旬から7月上旬にかけて豪雨に見舞われたが、適期防除と排水対策が為されたため、病害の発生は少なかった。

畜産

○ 酪農

前年中途に酪農家戸数が14戸から13戸に減少し、飼養頭数は減少した。併せて、猛暑及び飼料価格高騰の影響により生乳生産量は前年より減少した。

○ 自給飼料

イタリアンライグラス：収穫適期である4月に降水量が多く、降雨の合間に収穫できたところでは栄養化が高いサイレージが得られたが、収穫できなかったところでは刈遅れにより栄養価が低いサイレージとなった。

WCS用稲：病虫害が少なく、十分な収量を得られた。

6 参考資料

(2) 現地活動情報一覧

No.	情報テーマ	作成月日
1	新田原果樹部会、春季栽培管理講習会を開催	4月18日
2	新たな露地園芸品目の導入に向けて	4月20日
3	アスパラガスの栽培管理講習会を開催	4月28日
4	大平柿研究会総会を開催	5月1日
5	築上町農福連携反省会が開催されました	5月8日
6	京築大規模土地利用型農業研究会の総会が開催されました	5月12日
7	夏秋ナスの現地栽培管理講習会を開催	5月23日
8	J A福岡京築 勝山ねぎ生産部会総会の開催	5月24日
9	新しい農業振興の形に挑戦！	5月24日
10	大豆の播種前講習会を開催	5月23日
11	J A福岡京築スイートコーン部会が県庁でPR、販売促進活動を行いました	6月1日
12	農事組合法人国見営農組合が次世代の担い手との意見交換会を開催	6月30日
13	苅田小学校で小学生が大豆について学ぶ	6月30日
14	水田の畦畔管理の省力化はどうする	7月5日
15	大型扇風機の掃除による風量アップと省エネ効果	7月12日
16	水稻種子の良質・安定生産に向けて関係者で協議	8月10日
17	インボイス制度への対応について学ぶ	8月10日
18	行橋市二塚地区において伝統の水稻互評会を実施	9月4日
19	福岡県新規就農・就業相談会 i n 京築を開催！	9月7日
20	京築大規模土地利用型農業研究会の研修会が開催されました	9月7日
21	令和5年度産ケイトウ出荷が終了	9月28日
22	イチゴ現地講習会を開催	10月10日
23	麦類の安定生産に向けて	11月2日
24	上毛町で「うまい米・川底柿グランプリ」が開催	11月6日

No.	情報テーマ	作成月日
25	豊築地域集落営農組織連絡協議会が先進地視察研修会を開催	11月7日
26	株式会社ふるさぼ新田原が就農相談会を開催！	11月2日
27	新規就農者のつどいを開催	11月8日
28	みやこ町の農事組合法人ながわファームが令和4年度福岡県大豆作経営改善共進会で優秀賞を受賞	11月14日
29	三楽農事組合法人の創立総会が開催される	12月5日
30	スマート農業機械を実演	12月5日
31	イチゴ生産者の単収5トン以上の技術確立に向けて	12月7日
32	アスパラガス栽培管理講習会を開催	12月7日
33	京築地区青年・女性農業者等意見及び実績発表大会を開催	12月12日
34	J A福岡京築管内5か所で花き直売所講習会を開催	12月27日
35	J A福岡京築管内7か所で麦の講習会を開催	1月24日
36	築上町集落営農組織連絡協議会が勉強会を開催	1月31日
37	2つの集落営農法人が合同勉強会を開催	1月31日
38	農業における経営継承研修会を開催	2月6日
39	築上町の農事組合法人今津の里が令和5年度全国麦作共励会で全国米麦改良協会会長賞を受賞	2月29日
40	京築ぶどう研究会を設立	3月4日

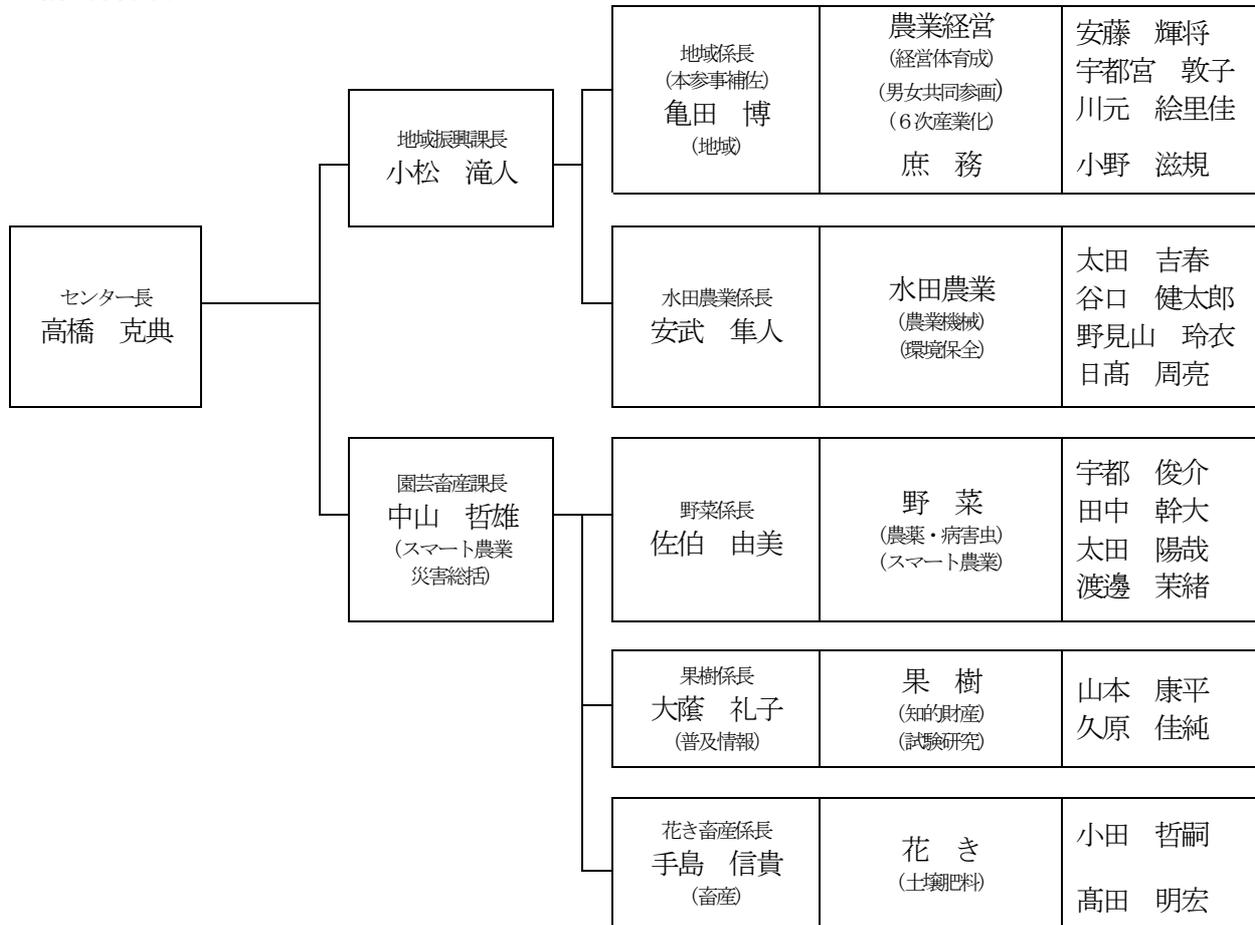
内容は、福岡県ホームページ「令和5年度京築普及指導センター活動情報」から閲覧できます。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/5keichiku-katudo-joho.html>

6 参考資料

(3) 普及指導センターの活動体制

■課・係体制



■班活動の体制

○プロジェクト班

担い手確保・育成推進班	総括：小松 推進員：亀田 班員：安藤、宇都宮、川元、安武、佐伯、大蔭、手島
築上町推進班	総括：中山 推進員：安藤 班員：谷口、宇都、山本、小田

○センター内運営事項における推進班

担い手育成推進班	総括：小松 推進員：亀田 班員：川元、谷口、田中、久原、高田
普及情報推進班	総括：中山 推進員：大蔭 班員：宇都宮、野見山、太田(陽)、小田
経営体育成推進班	総括：小松 推進員：安藤 班員：中山、亀田、安武、佐伯、大蔭、手島
環境保全・食の安全推進班	総括：中山 推進員：太田(吉) 班員：日高、渡邊、山本

○市町連絡会議等担当班

市町名	課長	地域係	各係・部門
行橋市	小松	川元	必要に応じ、市町連絡会議等の 会議へ参加
豊前市	中山	亀田	
荏田町	小松	宇都宮	
みやこ町	中山	川元	
吉富町	中山	安藤	
上毛町	中山	亀田	
築上町	中山	安藤	

■普及指導センター職員



宇都 日高 小田 太田(陽) 高田 安藤 田中 小野
 太田(吉) 野見山 佐伯 谷口 宇都宮 川元 渡邊
 手島 中山 山本 高橋 久原 大蔭 小松 亀田 安武

福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703605
登録年度 05	登録番号 0001



福岡県行橋農林事務所 京築普及指導センター

〒824-0005 福岡県行橋市中央一丁目2番1号

TEL (0930) 23-4215 / FAX (0930) 23-8290

URL <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4705401.html>

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp